ベンチャープラザ関東・東北

5社がプレゼン・商談会

平成22年度の「ベンチャープラザ関東・東北」が1日、東京都港区の中小企業基盤整備機構（中小機構）本部2階セミナールームで開かれた。中小機構関東支部・東北支部主催、経済産業省関東経済産業局・東北経済産業局の後援で、新規事業に果敢に取り組み、斬新なアイデアや技術等を持った中小・ベンチャー企業がベンチャーキャピタルなど投資家の前でプレゼンテーションし、資金調達を支援するのがねらい。今回は、関東地区から4社、東北地区から1社の計5社がビジネスプランを発表＝写真、その後個別商談会が開かれ、ベンチャーキャピタルなどから約50人が参加した。各社のビジネスプラン概要は次の通り。

◇ハンディテクノ（東京都渋谷区）

【100％リサイクル原料の次世代再生木材「ハンディウッド」の開発・生産・販売】

「ハンディウッド」は、廃木材と再生樹脂を原料に100％リサイクルして作られた「再生木材」で、ウッドデッキ、ベンチ、などに使用される屋外造作用建材。特徴は、①100％リサイクル原料のエコマーク認定商品②天然木材のような風合いを持つ③虫食い、腐れ、変退色がない④鋭利な割れ、ササクレが生じない⑤木材工具での切断・穴あけ加工に加えてビス止めが可能。既存の建材商社ルートなどに加え、大手建材メーカーにもOEM（相手先生産）供給予定。

◇ライフ（埼玉県越谷市）

【唾液分泌を数値化し、国際基準化を目指す医療機器・口腔（こうくう）水分計の製造販売】

現在、唾液の分泌が低下する口腔乾燥症（ドライマウス）の患者が急増、その弊害と検査の必要性が指摘されている。同社が開発した口腔水分計「ムーカス」（商品名）が、6月2日付けで薬事法の承認を取得し、医療機関・介護施設向け機器として10月から量産発売を開始する。特徴は、①約2秒で測定することができ、患者の負担が少ない②測定結果は分かりやすいデジタル表示③ハンディタイプ（約60㌘）で持ち運びが容易―など。価格は、機器本体4万8000円。3年間で1万台の販売計画。

◇クリノ（仙台市青葉区）

【ステント用金属チューブ及び細胞呼吸活性測定装置CRAS―1・0の製造販売】

文部科学省のスーパーCOEプログラムの一つとして発足した東北大学の先進医工研究機構のタスクチームの事業化を目的に設立された大学発ベンチャー企業。血管系治療のステント療法に用いる金属チューブを開発・製品化した。また、不妊治療の診断に必要な細胞呼吸活性測定装置「CRAS―1・0」も開発。現在は、より操作性に優れた次世代の測定装置「CRAS―2・0」の開発を目指している。

◇スターウェイ（東京都港区）

【環境対応型梱包箱「イースターパック」の開発、製造および販売】

「イースターパック」は、段ボールに代わる梱包資材として独自に開発した通い箱。使用している材料は、段ボールの数倍の強度を持つ板紙。繰り返し使用するのに充分な強度を持つと同時に、紙特有の加工性の良さと製造時のCO$_2$排出量の大幅削減を実現し、導入しやすい手頃な価格を兼ね備えた優れた原材料。08年より中国・山東省に自社工場が稼働開始しており、中国を足がかりに広くグローバル展開する企業を目指している。

また、「イースターパック」を通い箱として使用し、運送／梱包作業・管理・環境データ提供などを総合的に提供する「環境デリバリーパック」サービスも行っている。

◇MSI.TOKYO（東京都調布市）

【小型・高性能質量分析システムの開発および製造・販売】

大阪大学などが開発した「マルチターン方式の質量分析」技術を基に小型・高性能質量分析装置の製品化をめざして設立された大学発ベンチャー企業。同分析計は、分析対象となるイオンを同一飛行空間で複数回周回させることで、長い飛行距離を得て、小型でありながら高い質量分解能を達成できるのが特徴である。

とくに、小型かつリアルタイム測定が可能で、現場で迅速に検知できるため、損失を最小限に抑止できる理想的なシステム構築が可能。ターゲットは、製薬・化学・食品などの分野、研究所、消防、警察、税関、自衛隊、航空、鉄道関連で、海外から引き合いも寄せられている。

新規上場支援に意欲

JASDAQ東北フォーラム

新JASDAQ市場が10月12日に誕生するのに伴い、大阪証券取引所（大証）と中小機構東北支部が主催する「JASDAQ東北フォーラム」が8月25日、仙台市青葉区の江陽グランドホテルで開催された。アジア最大級となる新しい新興証券市場の登場に、東北地区の上場、未上場会社や金融機関などから約70人が参加した。

主催者挨拶で松本学・大証取締役副社長が「大証は国内で唯一の上場証券取引所で63％を外国人投資家が保有、デリバティブ（金融派生商品）市場では世界で15位の取引高でグローバルなマーケットを展開している。ジャスダック、ヘラクレス、ネオの3新興市場を統合し新JASDAQ市場が誕生するが、アジアナンバーワンの新興市場を目指す。3つのコンセプトのうち地域性・国際性を大事にしたい。各地域のポテンシャルある企業の上場を通じて地域の活性化に貢献し、社会展開を支援する強い思いを込めている」と、新規上場支援に強い意欲を示した。

新市場の制度説明を村田雅幸・大証執行役員が「新JASDAQ市場の創設」と題して行った。新市場は一定事業規模の企業群の「スタンダード」とベンチャー性の強い企業群の「グロース」に区分される。グロースは純資産額、利益など形式基準は緩いが、将来性を担保するため、年1度の中期（3年以上）経営計画を策定し公表するとともに投資者向け説明を義務付けている。

さらに市場の信頼性を高めるため上場管理を強化した。市場に混乱を与える恐れのある問題行動を起こしたり、債務超過などの上場廃止基準に基づく猶予期間に入ったりする銘柄を対象にして「整理」「監理」の前段となる「監視区分」を新設する。また上場廃止基準に「4年継続して営業利益および営業キャッシュフローが負の場合、1年以内にいずれかが正にならないとき」を新規に加え、浮動株時価総額を「2億5000万円未満になり、1年以内に2億5000万円以上とならないとき」と流動性を求めることにした。

また、新市場開設に合わせ「JASDAQ

地域最前線

⑮ 中小機構 四国支部

地域資源で新ビジネス創出

今年度は「オール四国での挑戦」へ

四国支部は、四国の豊富な地域資源を活用した新事業の創出を通じ、地域活性化と地域におけるノウハウの構築や地域リーダー人材の育成を目的に、平成21年5月に「四国サイコーダイガク」を設立した。四国の中小企業者、農林水産業者、支援者などとの有機的な連携による地域振興のモデル形成も狙いとしたもので、「地元からの評価も高く、今後もより充実した態勢で継続させたい。新事業の創出をはじめ、きっちりと成果が出せるよう取り組んでいく」（宇田川文男支部長）という。

四国サイコーダイガク

四国サイコーの持つ意味は、「四国をもう一度考え（再考）、もう一度元気にし（再興）、最も気持ちいい場所にする（最高）」との想いを込めたものだ。21年度には、「食学部」「旅学部」「ものづくり学部」を創設、農水産物や観光資源を活用した新ビジネスの創出、ものづくり企業とアーティストとのコラボレーションによる新商品開発の可能性などを探求した。

食学部では、四国のうま味食材の組み合わせによる「四国うま味だし」の開発、四国の1次産品を活用した「四国スイーツ」のブランド化を開発テーマとして取り組み、実際には高知の鰹などを活用しただしの試作品開発という成果をあげ、現在、農商工連携の事業認定の準備を進めている。

旅学部では、お遍路八十八ヶ寺巡りや瀬戸内の島々の活性化を図る新サービスの開発をテーマに掲げた。グループごとのディスカッションを通じ、瀬戸内の新しい魅力を多くの人に伝えるためのヨットでのツアー事業を展開する会社を近く設立という具体的成果に結びついている。

ものづくり学部では、地元企業とアーティストとのコラボで、廃材のアート化や端切れを加工したランチョンマット、あるいは〝立体手袋〟といった商品化が行われた。

「こうした取り組みは、地道な努力の積み重ねであり、決して一過性で終わらせることなく、時間はかかるかも知れないが継続していくことが大事」（同）と話す。

今年度は「オール四国での挑戦」をコンセプトに、「流通学部」「コミュニティビジネス学部」「観光学部」を創設し、地元中小企業による広域連携やノウハウを結集することで農商工連携、住民参加による地域ビジネス創出の取り組みが進められている。各学部とも約20人が参加、それぞれの事業テーマに沿った熱いディスカッションが展開中だ＝写真。

流通学部で〝学ぶ〟

橋井義博氏

中矢安彦氏

川野　洋氏

3人の参加者に入学の動機や期待について聞くと―。

食品原材料の卸業、橋井商店（香川県宇多津町）の橋井義博・営業グループ主任は、「少子・高齢化の中で売り上げの伸び悩み状況が続いている。小麦粉、砂糖をはじめ特徴ある商品を販売してはいるが、厳しい状況だ。食品原材料を生かした新しいビジネスを探したいと思い入学した。走りながら、学び、考えて新ビジネスを創出したい」という。

老若男女を問わず人気のたい焼き店の運営を手掛けるデザートディッシュアンドカンパニー（高松市）の川野洋・代表は、「地域資源を生かした新商品開発でコラボレーションができないかと思い入学した。いまホットドッグのテイクアウトビジネスを考えている。良質な愛媛県の特産品を国内や海外に産直販売する無双社（松山市）の中矢安彦・代表取締役は、「みかん、タオル、陶器など現在30品目を扱っているが、産直販売の延長線上での新ビジネスを模索したいと思ったのが入学の動機。流通、加工といったビジネスの横の繋がりの中で相互に活用できるビジネスを見つけたい」と話す。

宇田川文男・四国支部長「四国ブランド構築も」

7月1日に四国支部長に就任した宇田川文男です。

四国地方は、全国1位から3位のシェアを持つ農水産物が37品目もあり、加えて観光資源など素晴らしい地域資源を有しています。しかもその潜在力はまだまだ多くあり、東京など大都市圏への販路開拓の可能性を十分に秘めています。地域ブランドの確立や農商工連携など、これまで取り組んできた地域活性化事業などでの経験を生かし、地域の人たちに喜ばれる仕事をしてまいりたい。とにかく現場に赴き、企業経営者や生産者の皆様と直接お話しを聞く機会をつくり、四国4県の個性を生かしながら「四国ブランド」の構築も目指したいと思っています。

目指す四国サイコーダイガク。「タネをまき、花を咲かせ、実をならす。四国の地域資源からして新しいビジネスをつくる伸びシロは他の地域より多いと思う。ヤル気と支援の仕方しだい」（同）と、その役割を見据える。

「〝4つの転換〟が必要」

「産業構造ビジョン2010」を解説

虎ノ門セミナー

中小機構は、経済産業省が今年6月に報告書としてまとめた「産業構造ビジョン2010」の内容をひも解く虎ノ門セミナーを3日、東京都港区の中小機構会議室で開いた。

「国を挙げて国際競争力強化に乗り出す」をサブタイトルに、立石裕則・経済産業省経済産業政策局産業再生課長補佐が解説した。

「産業構造ビジョン2010」は、リーマン・ショック後の日本経済の閉塞感から「今後日本は何で稼ぎ、何で雇用していくか」について、経済産業省が日本経済の現状と課題を検討、日本の今後の産業構造のあり方について取りまとめたもの。立石氏は「産業構造ビジョンで実現したいことは、国を挙げて産業のグローバル競争力強化に乗り出すこと」と述べ、世界の主要プレーヤーと市場の変化に遅れた日本産業の「行き詰まり」を直視するとともに、戦後成長の「成功の神話」から脱却する上で、政府、民間を通じた「四つの転換」の必要性を指摘した。

「産業構造の転換」

「企業のビジネスモデルの転換」「グローバル化と国内雇用の二者択一からの脱却」「政府の役割の転換」で、今後の戦略産業分野として掲げた①インフラ関連、システム輸出（原子力、水、鉄道など）②環境・エネルギー課題解決産業（スマートコミュニティ、次世代自動車など）③文化産業立国（ファッション、コンテンツ、食、観光など）④医療・介護・健康・子育てサービス⑤先端分野（ロボット、宇宙など）―の5分野について、あるいは国際標準化への対応、法人税率の軽減、グローバル高度人材の育成などについて解説した上で、「国と企業の壁、省庁の壁、国と地方の壁を乗り越え、グローバル競争時代に打ち勝つ戦略の構築と実施が不可欠」と強調した。

富士山麓医療機器産業フォーラム

設立会議・シンポ開催

中小機構の川上・川下ネットワーク構築事業を受託した、しずおか産業創造機構ファルマバレーセンターが主催する「富士山麓医療機器産業フォーラム」の設立会議が8月24日、静岡県沼津市のアンジェ・ヴィラージュブケ東海で開催された。記念講演やパネルディスカッションのキックオフ・シンポジウムも兼ね、静岡県内外の医療機器メーカーや関連団体、支援機関などから130人が参加した＝写真。

設立会議では山村善敬・しずおか産業創造機構副理事長が「静岡県は地域の特色を生かして三つの産業クラスターを進め、今回のバックボーンとなった富士山麓先端健康産業集積（ファルマバレー）プロジェクトもその一つ。さらに事業を進めるためニーズ、シーズを発掘するビジネスマッチングを促進する事業を行おうと川上・川下ネットワーク構築事業に手を挙げた。これまでの事業に加え、大手医療メーカーなどとのネットワークづくりは重要な戦略となる」と挨拶した。

続いて来賓の竹上嗣郎・経済産業省医療・福祉機器産業室長と吉川茂樹・中小機構ものづくり・サービス産業支援課長が挨拶した。

「政府が閣議決定した新成長戦略の中のライフ・イノベーションは、医療の国際化と情報化、介護のIT（情報技術）化、革新的な医療機器の開発が4本柱になっている。医療の国際的な競争が激しくなっている中で、こうした事業が進展するよう厚生労働省と連携を取りながら進めていきたい」（竹上室長）、「さまざまな現場と、ものづくり中小企業の間に情報を確実に届けて産業を振興するのがネットワーク構築事業の目的。とりわけコーディネーターの動きが重要だ。今回の事業が成功に導びかれるよう努力してほしい」（吉川課長）とそれぞれエールを送った。

しずおか産業創造機構が目指す川上・川下ネットワーク構築事業が説明された後、事業の扇の要となる6人のジョイント・コーディネーターが紹介され、挨拶した。

記念講演は大村昭人・帝京大学医療技術学部長が「医療・介護で産業革命を起こせ！」と題して話した。

「ものづくり技術が素晴らしい日本は医療分野で遅れている、と何十年と言われ続けている」として、医療は社会的な負債とした30年前の論文「医療費亡国論」に現在の医療崩壊の始まりがあると指摘した。

また、「医療産業は自動車、エレクトロニクスに匹敵する大きな成長分野だが、介護ロボットや高機能体重計など介護・在宅医療機器の統計データはない。欧米は取り組み始めている巨大マーケットだが、日本は後れを取っている」との認識を示した。

米英両国の医療制度の失敗を見たあと、日本の医療制度の問題点として、医療に厚生労働、文部科学、総務、経済産業の4省庁が関わる縦割り行政▽医師養成制度の不備▽医師絶対数の不足と偏在▽医療の質（診療成績）の客観的評価システムがない▽女性医療従事者の働く環境の不備―などを挙げ、「最大の問題」として「新薬、とくに抗がん剤や新医療機器導入の大幅な遅れ」を取り上げた。

「EU（欧州連合）は医療機器が今後のEU経済発展に極めて重要と認識している」とした。とくに北欧諸国は医療・福祉・教育へ大きな投資を行い、国の活性化に生かしているとデンマークを例にあげ、「失業してもトレーニングして再雇用、脳梗塞（こうそく）になっても週2日の労働で残り3日分を政府が支払っている。その方が医療費は多くならない」という現状を説明した。

その上で「医療は負債でなく投資。日本の高い技術力を医療に集中せよ。宝の山がある」などと「医療立国にこそ日本の将来がある」と、医療関連の4省庁を再編統合して医療庁（省）の創設を呼び掛けた。

「医療機器を取り巻く環境とニッポンの新成長戦略」をテーマにしたパネルディスカッションは大村氏がコーディネーターとなり、問題提起した三澤裕・日本医療機材工業会医療機器産業戦略委員長のほか楠原正俊・静岡がんセンター研究所地域資源研究部長、井上政昭・日本医療機器工業会理事、盛田延之・東海部品工業代表取締役の各氏がパネリストとなって話し合われた。

5県から12人参加

関東支部「お客様懇談会」

中小機構関東支部「お客様懇談会」が8月4日、群馬県高崎市のホテルメトロポリタン高崎で開かれ、関東支部の支援先企業のうち、栃木、群馬、埼玉、新潟、長野の5県から中小企業経営者12人が参加、中小機構の事業についての評価や期待などについて生の声を聞いた。中小機構からは、前田正博理事長、宮田芳男・関東支部長らが出席した＝写真。

最初に前田理事長が「全国に9支部と大学校を設置し、職員と専門家を配置し体制を整えている。皆様のご意見や指摘を踏まえた上で、関東支部の経営資源を投入していきたい」と挨拶した。続いて中小機構の事業紹介の後、出席した支援先企業の経営者から機構事業の評価・期待などを聞いた。

専門家継続派遣事業では、「国際化支援アドバイスも実施し、良い成果が得られた」「中小機構は、〝よろず相談所〟のような存在である」などの意見が出された。

新事業創出支援事業では「地域資源の認定を受け、スーパーマーケットトレードショーに出展、成果が得られた。今後、ブロック別の販売促進のための交流会等の開催を希望する」などの要望が出された。

海外展開・国際化では、「中小企業単独での海外展開は難しく、中小企業が連携して海外展開を行うための支援をして欲しい」「海外展開に必要なプレゼンテーションの心得および契約実務に対する支援や的確なアドバイスを期待している」との意見が、高度化事業については「手続期間を短縮し、スピーディーな対応をしてほしい」との要望が出された。

中小企業大学校では、「経営理念、経営戦略など次代の経営幹部を養成するコース、新技術に関する研修を安価で〝低廉〟な受講料を今後とも維持して欲しい」などの要望が出され、活発な意見交換が行われた。

横浜・元町ショッピングストリートで現地研修

街元気～人材育成プロジェクト～2010

経済産業省が主催し、中小企業基盤整備機構（中小機構）が事務局を務める「街元気～人材育成プロジェクト～2010」の一環として、「横浜市元町ショッピングストリート現地研修」が8月26、27日の2日間、〝元町ブランド〟発祥の地として全国的に知られるに横浜・元町ショピングストリートを舞台に行われた。全国から商店街関係者、自治体議員・職員などまちづくりに関心を持つ12人が参加し、先進的なまちづくりの歴史や元町独自のまちづくり手法など現地見学を含めて実践的なまちづくりを学んだ。＝写真

「街元気～現地研修」は、中心市街地活性化の推進を担う人材を育成することを目的に、先進的な取り組みを行っているまちづくりのリーダー（街元気リーダー）による研修で、平成22年度は、全国14地域で実施される。

横浜・元町での現地研修は、協同組合元町SS会の山田義人事務局長を講師に行われた。1日目は、「『元町』の成り立ちとブランディングについて」をテーマに、元町の歴史を、「150年前の横浜開港と同時にできたもので、山手に住む外国人相手の商売を始めたのが最初。西洋家具の修理からスタートした横浜家具、洋服など西洋文化の影響を受けたハイカラな街に発展した。製造・販売を手がける商店街が特徴で、やがて〝元町ブランドに発展し、元町でしか手に入らない、〝オンリーモトマチ〟に受け継がれた」と強調した。

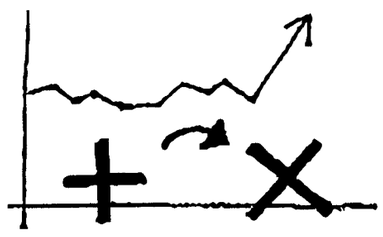
商店街組織の元町SS（ショッピングストリート）会は、昭和22年任意団体として設立、25年には協同組合となり、本格的なまちづくりに取り組んだ経緯を紹介した。具体的には、みなとみらい（MM）線開通による来街者の増加、各種商業施設の進出を想定し、「元町地区の歴史と文化、個性を活かしつつ、商業と居住の調和がとれた安全で快適な品格のあるまちづくりを推進する」ことを基本に、第1期街づくりとして壁面後退の歩道整備、第2期は街並みと電線地中化の道路整備、第3期は地元発意による地区計画制度の導入で、MM線「元町・中華街駅」開業に合わせたバリアフリー化と「ホスピタリティ（もてなしの心）の街づくり」を完成させたと説明した。

現地見学は、山田事務局長の案内で、猛暑の中、元町SSと元町クラフトマンシップ・ストリート、共同配送などを見学した。その後、三浦順治・街づくり委員会委員長から、商店会と自治会が一体となった「元町まちづくり協議会」の設立の経緯と自らの体験に基づくまちづくりルールによる麻雀、パチンコ、カラオケボックス、風俗の用途制限と屋根・外壁・屋外広告の美観配慮―などの取り組みについて説明を受けた。

その後、講師と参加者によるディスカッションし、現地研修ならではの活発なやり取りが行われた。2日目は、「財源を生み出す仕組み」「次世代のまちづくり人材の育成」などを学んだ。

今回の現地研修について、参加者全員が「非常に参考になり満足している」と高く評価した。また「施策、手段を学べたのはもちろん、何より、まちづくりに携わる人の考え方、熱意を感じた」などの感想を寄せ、研修の成果をあげた。

随想



「掛け算」の時代

倉部　行雄

かつて（98・9・15）、本欄で「日本人と引き算」について書いたことがあるが、今回は「掛け算」について考えたい。

結論からいえば、今は「〝掛け算〟の時代」だと思う。

例えば、作曲家の久石譲氏は、ルキノ・ヴィスコンティ監督の映画「ベニスに死す」を評して「間違いなく、ここでは映像と音楽が足し合うのではなく、掛け算にしてみせて我々の度肝を抜くのである」と。

また、昨年9月12日付け繊研新聞のトップ記事の見出しは「衣×食×住の乗算でファミリーをつかむ」であった。

他方、書店に行けば、数学に関する本がかなり目に付く。

「脳を鍛える大人の計算ドリル」（川島隆太著）、「計算力を強くする」（鍵本聡著）、「二桁のかけ算一九一九」（かえるさんとガビンさん著）などなど。

この傾向について、計算能力の低下など、高齢化社会の訪れが背景にあるのでは、という見方もあるが、日経次長・吉次弘志氏は次のように述べている。

「景気も今ひとつぱっとせず、政治も混迷し、グローバル化の進展で今まで頼りになった会社や地域社会などもガタガタになった。そんな不安が絶対確実なものの代名詞、数学への憧憬につながり、静かなブームを生んでいるのかもしれぬ。」（10・7・18日経）

また、国会で、菅総理が財務大臣の頃、「『乗数効果』とは何か」と問われて答弁に窮し、話題になったこともある。

ちなみに「乗数効果」とは、「一定額の独立支出が、その波及効果によって、もとの何倍かの所得を生み出すこと」だ。

書店で、こんな本も目を引いた。

メインタイトルは「仕事は掛け算」（鮒谷周史著）、サブタイトルは「20倍速で、自分を成長させる」である。

成長といえば、「世の中で最も〝乗数効果〟の高い投資は何か、私は頭脳への投資と教育への投資だと思う」と言うのは、ナガセ社長の永瀬昭幸氏だ。

氏によれば「米国のマイクロソフトやグーグルに、巨額の資金や他社がマネできない設備があったわけではない。資産といえるのは、ただ一つ、創業メンバーの頭脳だけだった。その資産によって画期的なソフトウエアや検索アルゴリズムを開発し急成長を遂げた。」というわけである。

ただ「商品開発戦略」については、15年前に平林千春氏の「〝足し算〟から〝掛け算〟へ」との意見がある。

これによれば、「バブル期には、次から次へと機能を足して付加価値を増していく〝足し算型〟で差別化できたが、今日の高度化した鑑識眼の持ち主の前では、価格、品質、実用性などのすべてが正の価値を持ち、掛け算でトータル商品価値を保証しなければならない。」のである。

注目すべきは、さらに花王の元社長・常盤文克氏の次のような発言だ。

「経営は足し算ではなく、掛け算ということを私は常に言ってきました。足し算は一つゼロあってもいいが、掛け算では一つゼロがあればゼロになる。しかし、掛け算の経営は、相乗効果が出てくる。結局、総合力ということになる。」（97・6・7週刊東洋経済）

Rinがものづくり体験教室

地域力宣言2010.in原宿表参道

出会う！ふれあう 地域の魅力キャンペーン

東京都渋谷区の表参道ヒルズで8月28、29の両日開かれた「地域力（ぢから）宣言2010.in原宿表参道」に、「Rinものづくり体験教室in表参道ヒルズ」を出展した。

「Rin×メーカーコラボセミナー」の2回目として開催したもので、初日の28日は、四万十ドラマ（高知県四万十町）による「四万十川新聞バッグ作り教室」を開き、海外でも話題となっている新聞バッグづくりを体験、大小2種類のバッグの作り方を来場者に伝授した＝写真。

1時間30分の体験教室を2回開き、1回ごとに会場から先着10人の参加者を募って行われた教室ではブランケット版見開き2ページ分の新聞を使い、小サイズの新聞バッグづくりに挑んだ。新聞紙とのりだけで手軽に作れ、しかも丈夫な新聞バッグに感心しきりだった。

29日は五十崎社中（愛媛県内子町）による「ギルディング体験教室」が行われ、フォトフレームや花瓶に数色の金属箔を貼り付けて仕上げるオリジナルのグッズ製作を楽しんだ。

「つまみ細工」を体験

親子連れなど30人参加

Rin

〝つまみ職人〟の匠の技を実際に見ながら、自分も体験してみようという「職人さんに学んで作ろう、親子で楽しむ『つまみ細工』体験教室」が8月23、24の両日、中小機構が運営するテストマーケティング・ショップ「Rin」（東京都港区北青山3ノ6ノ26）イベントスペースで開かれた。ちりめん素材の色布をピンセットなどでつまみ、花弁や蝶などにこしらえる「つまみ細工」、この道およそ60年という穂積実（74）さんがその名人技を披露し、参加した親子連れなどに作り方を丁寧に指導した＝写真（左が穂積さん）。

体験制作したのは花弁を組み合わせたアクセサリー類で、2日間で主婦や親子連れなど約30人が参加した。穂積さんのアドバイスを受けながら、慣れぬ手つきで花弁ブローチなどの制作に取り組んだ。

この体験教室を企画したのは、つまみかんざしなど髪かざりや和・洋装のアクセサリーなどを製造販売するラブロン（東京都台東区）。高橋正侑・代表取締役は「昨年11月にお客さんの声に押されてつまみ細工の教室を開いたが、毎回、満席状態となり好評だった。今回のRinでの催しを契機に、つまみ細工をクラフトとして位置付け、2年後をめどにつまみ細工教室を本格に展開し、全国に広めていきたい」と言う。

手拭いクリエーターとファンらの出会い演出

手拭いクリエーターと手拭いファンの新たな出会いを目指す「手拭クリエイティブマーケット2010」が8月28、29の両日、「Rin」イベントスペースで開催された。今年3月にRinで開いた「手拭クリエイティブ2010」が好評だったことから、今回はその第2弾として、手拭いデザインを手掛けるクリエーターと手拭い愛好家などとの新たな出会いを演出した。出展した手拭いクリエーターは、なな梅、タツミ・デコ、ブルーアンドホワイト、むうや、キモノスイッチ、中川染工の6社。

また、江戸時代の手拭いを含め約1万本もの手拭いを所有する豊田満男さんのコレクションが展示されたほか、瀧澤一郎・東京和晒社長がさまざまな手拭いデザインの紹介をしながら愛好者と一緒に手拭いデザインを考える「手拭デザイン講座」なども行われた＝写真。瀧澤さんは「3月のイベントには予想以上のお客様が来場された。今回も多くの人たちが立ち寄っていただいたが、これを新しい販路開拓に繋げたい」と話す。

〝サンゴパール〟など一堂に

宇和島パール振興が展示即売

世界初のサンゴパール（Coral Pearl）と無調色天然真珠ナチュラルホワイトパールなどの宇和島パール商品を一堂に集めた「珊瑚パールエキシビション　展示販売会」が3日から6日まで「Rin」イベントスペースで開かれた。

サンゴパールは、珊瑚を真珠核として用いることで、ほのかなピンク色の上品の色合いを持つ無調色の輝きを持つ、松本真珠（愛媛県宇和島市）が開発したオリジナル・ブランド商品。今回の展示・販売会では、このサンゴパールのネックレス、指輪、ブローチなど約50種類とナチュラルホワイトパールを含めた同社のパール商品約250点が展示・販売された。

主催した宇和島パール振興の松本信愼二・代表取締役社長は、「オリジナルの〝サンゴパール〟をメジャーな商品にしたいというのがねらい。これまで百貨店や小売専門店での出展はあるが、首都圏では初めて単独での展示・販売会をRinで開催した。今回の展示会は、中小機構四国支部の支援を得て開いた。1社単独では難しかった。これを機に、サンゴパールの全国普及のため来シーズンを目標に商品の差別化を図った新ブランド化戦略を推進することを計画している」とアピールした＝写真（左が松本社長）。

Rin

9―10月の主なイベント予定

【1Fショップ　特集企画】

◆「本気布（マジギレ）～育ててゆく布」＝開催中～9月27日

◆「桂樹舎企画展」＝9月29日～10月12日

【3Fイベントスペース】

◆「四人展―おかざきの和物―」＝9月17～19日、主催・ファナビス他

◆「吉野川市ブランド特産品展」（梅酒、みそ、梅干し、あじろ製品など）＝9月27～29日、主催・徳島県吉野川市

◆「技×美展　鈴木尚和×メーカーズ製品・展示&商談会」＝10月1日～4日、主催・スパッジオワークス＋Rin

問い合わせ＝Rin（☎03・6418・7024）

http://rin.smrj.go.jp

※イベントは変更になる場合があります。

中小企業大学校おすすめ研修案内（12～1月開講分）

校名	研修コース名	実施期間	研修日数	受講料	研修内容
旭川校	事例に学ぶ「運送業」の経営戦略	1月11日（火）～12日（水）	2日間	24,150円	全社的な取り組みで強い企業へと変革するため、強固な体質作りの方策について学ぶ
	経営トップセミナーⅢ【より強い会社を作る社長の仕事】	1月21日（金）～22日（土）	2日間	21,420円	経営ビジョンが経営者と周囲に与える効果を事例を交えて学ぶ
	価値を高める！上手な時間の活かし方	1月24日（月）～25日（火）	2日間	24,150円	業務を合理的・効率的に進めるために、実践を想定して思考法や仕事術を身につける
仙台校	経営トップセミナー	1月15日（土）	1日間	15,000円	地域の中小企業が、世界へ果敢に挑戦していくための最新情報や経営戦略のあり方について学ぶ
	提案営業の基礎と実務（2）	1月24日（月）～1月26日（水）	3日間	27,000円	顧客から必要とされ、頼りにされる営業パーソンとなるために有効な手法である、提案型営業について学ぶ
	現場改善の進め方（2）	1月25日（火）～1月28日（金）	4日間	34,000円	生産基盤強化の基本である「5S」と「目で見る管理」による様々な改善の手法を演習を通じて実践的に学ぶ
三条校	生産スケジュールと納期管理	12月7日（火）～12月9日（木）	3日間	27,000円	納期管理に必要な生産計画・統制の知識と、納期短縮のための現場改善技法を演習を通じて学ぶ
	企業力アップのための人事制度づくり	12月14日（火）～12月16日（木）	3日間	27,000円	社員の意欲と経営効率を高めるための、評価・賃金制度を中心とした人事制度づくりを、演習を通じて学ぶ
	女性リーダー研修	12月15日（水）～12月17日（金）	3日間	27,000円	女性リーダーに求められる能力と役割を講義で学んだあと、コミュニケーションスキルを体験的に学ぶ
東京校	新任現場リーダーの改善入門(1月)	1月12日（水）～1月13日（木）	2日間	21,000円	現場改善実践に必要な3ム発見の着眼力を養い、その手順と定着化、改善計画策定のポイントを学ぶ
	企業イメージアップのためのCS講座	1月20日（木）～1月21日（金）	2日間	21,000円	顧客満足向上に必要なポイント（社員満足）を理解し、自社の顧客満足向上実現計画の作成に取り組む
	営業パーソンの能力アップ入門（1月）	1月25日（火）～1月27日（木）	3日間	30,000円	現代の営業パーソンに求められる役割と心構えについて、基本技術・顧客交渉の実践を交えながら学ぶ
瀬戸校	リーダーのための部下育成	12月7日（火）～12月10日（金）	4日間	34,000円	コーチング技法を取り入れた部下の育成法について、すぐにでも実践できるテクニック・ノウハウを学ぶ
	「カイゼン」による生産性向上の進め方	12月14日（火）～12月16日（木）	3日間	27,000円	生産工程を見直し問題点を解決することで生産性を向上させ、会社に利益を生み出す手法を演習を交え学ぶ
関西校	経営者のための「会計力」養成講座【天満橋】	1月13日（木）	1日間	15,000円	会計を経営に活かすための考え方や着眼点、実践的な活用法について学ぶ
	営業マネージャーのための部下育成法	1月25日（火）～1月27日（木）	3日間	27,000円	営業の見えない競争優位をつくりだし、高い生産性をあげるためのマネジメント手法について学ぶ
広島校	財務管理者養成コース（第6期）	1月13日（木）～1月14日（金） 1月27日（木）～1月28日（金） 2月9日（水）～2月10日（木）	6日間※	48,000円	決算書、キャッシュフロー計算書、損益分岐点分析等を学び、多角的な視野で経営分析を行う能力を養成する
	戦略的人材マネジメントの進め方（企業経営者短期育成シリーズ3）	1月25日（火）～1月26日（水）	2日間	21,000円	企業の経営戦略の中で、人材をマネジメントし社員一人ひとりの能力を発揮して成果につなげる手法を学ぶ
直方校	経営者のためのビジネス講座～強い組織をつくる「人」と仕事」のマネジメント	12月8日（水）	1日間	15,000円	経営判断の事例から、「人」と「仕事」のマネジメントに対する考え方、手法について学ぶ
	会計情報を活用した見える経営（北九州）	12月9日（木）	1日間	15,000円	金融機関等から求められる中長期利益計画等の策定に役立つ内容を実践的に学ぶ
	経営者のためのビジネス講座～経営に役立つ！財務知識の活用法とIFRS～	1月25日（火）	1日間	15,000円	経営判断に役立つ財務知識の活用法と 国際財務報告基準（IFRS）について学ぶ
人吉校	カイゼン入門【宮崎教室】	1月26日（水）	1日間	15,000円	製造現場やオフィス等におけるカイゼンの進め方とポイントについて事例を交えながら学ぶ
	営業スキルアップ講座【宮崎教室】	1月27日（木）～1月28日（金）	2日間	21,000円	営業活動の基本を再認識し、営業成果を上げるためのヒアリング力など商談技法について学ぶ
Web-Training https://www.smrj.ac.jp/	管理者の職務と役割	随時開講（標準受講時間10時間）	30日間	15,000円	プレーヤーからマネージャーになるために必要なマネジメントスキルなど管理職の基本を学ぶ
	現場に学ぶ5S	随時開講（標準受講時間10時間）	30日間	15,000円	オリジナルのチェックリストで改善手法を学び、演習や先進事例を通じて実践力を身に付ける
	電気・電子の基礎	随時開講（標準受講時間10時間）	30日間	15,000円	オームの法則など電気理論やディジタル技術の基礎知識などの電気系エンジニアの基本を学ぶ
	シーケンス制御技術	随時開講（標準受講時間10時間）	30日間	15,000円	ラダー図を理解し、リレーシーケンス制御回路の設計ができる知識を学ぶ

【申し込み・問い合わせ先】

●北海道支部 人材支援部
〒060-0002　北海道札幌市中央区北2条西1-1-7 ORE札幌ビル6階
TEL：011-210-7475（直通）　FAX：011-210-7480

●旭川校
〒078-8555　北海道旭川市緑が丘東3条2-2-1
TEL：0166-65-1200　FAX：0166-65-2190
http://www.smrj.go.jp/hokkaido/jinzaishienbu/
E-mail：asahi-unei@smrj.go.jp

●仙台校（東北支部人材支援部）
〒989-3126　宮城県仙台市青葉区落合4-2-5
TEL：022-392-8811FAX：022-392-8812
http://www.smrj.go.jp/inst/sendai/
E-mail：sen-kenshu@smrj.go.jp

●東京校（企業研修課）
〒207-8515　東京都東大和市桜が丘2-137-5
TEL：042-565-1207（代表）　FAX：042-590-2685
http://www.smrj.go.jp/inst/tokyo/
E-mail:to-kenshu@smrj.go.jp

●三条校（関東支部人材支援部）
〒955-0025　新潟県三条市上野原570番地
TEL：0256-38-0770（代表）　FAX：0256-38-0777
http://www.smrj.go.jp/inst/sanjyo/
E-mail：san-kenshu@smrj.go.jp

●瀬戸校（中部支部人材支援部）
〒489-0001　愛知県瀬戸市川平町79 番地
TEL：0561-48-3400（代表）　FAX：0561-48-2224
http://www.smrj.go.jp/inst/seto/
E-mail：se-kenshu@smrj.go.jp

●関西校（近畿支部人材支援部）
〒679-2282　兵庫県神崎郡福崎町高岡
TEL：0790-22-5931（代表）　FAX：0790-22-5941
http://www.smrj.go.jp/inst/kansai/
E-mail：kan-kenshu@smrj.go.jp

●広島校（中国支部人材支援部）
〒733-0834　広島市西区草津新町1-21-5
TEL：082-278-4955（人材支援課）
FAX：082-278-7201
http://www.smrj.go.jp/inst/hiroshima/
E-mail：hiro-kenshu@smrj.go.jp

●九州支部 人材支援部
〒812-0038　福岡市博多区祇園町4番2号 博多祇園BLDG.
TEL：092-263-1500（代表）　FAX：092-263-0350

●直方校
〒822-0005　福岡県直方市永満寺1463-2
TEL：0949-28-1144　FAX：0949-28-4385
http://www.smrj.go.jp/inst/nogata/
E-mail：no-kenshu@smrj.go.jp

●人吉校（九州支部人材支援部）
〒868-0021　熊本県人吉市鬼木町梢山1769-1
TEL：0966-23-6800　FAX：0966-22-1456
http://www.smrj.go.jp/inst/hitoyoshi/
E-mail：hito-kenshu@smrj.go.jp

中小企業大学校Web-Training
https://www.smrj.ac.jp/
〒207-8515　東京都東大和市桜が丘2-137-5
TEL：042-565-1276
FAX：042-590-2685
E-mail：to-enkaku@smrj.go.jp

（注意事項）
①研修日数に※が付いている研修は、インターバル期間のある研修です。実施日等詳細につきましては、ホームページでご覧いただくか、各申し込み・問い合わせ先までお問い合わせ下さい。
②研修コース名、実施期間、研修期間、受講料は変更になる場合があります。
③既に定員に達している場合があります。予めご了承下さい。